

●浜の話題

- 12月14日から21日にかけて、相模湾試験場と定置網漁業者は、クロマグロの入網を抑制するための試験網を相模湾内の大型定置網に設置しました。実際の入網状況を観察するため、試験網にはタイムラプスカメラ（※注）を取り付けています。試験終了後は、カメラの画像と入網した漁獲物を照らし合わせ効果を検証していく予定です。

※注：設定した時間間隔で撮影を行い、撮影画像を自動的に繋がった動画として記録するカメラ。



設置したタイムラプスカメラ

- 12月18日、長井町漁協所属のトラフグ延縄漁を行う漁業者グループ「福会（ふくかい）」は、トラフグのブランド化について打合せを行いました。当日はまず担当普及指導員が、過去にブランド化した「松輪サバ」や「湘南はまぐり」の好事例の紹介や、ブランド化に必要な事項、期待できる効果について説明し、その後ブランド化に向けて意見交換しました。漁業者は新型コロナウイルスの影響に伴う魚価安に危機感を募らせているものの、自粛ムードの最中での取り組みは効果も限られることから、時間をかけてPR強化や知名度向上に向けて検討していくこととなりました。



打合せの様子

- 12月19日、江の島片瀬漁協は、藤沢市の支援を受け、平均殻長25mmのアワビ種苗15,650個を放流しました。当日は、ボランティアのダイバーが江の島地先に潜水し、アワビの生息に適した場所に種苗を傷つけないよう大切に放流しました。アワビ種苗は（公財）県栽培漁業協会が生産したもので、活きのよい優良な種苗だったそうです。



放流するアワビ種苗

○ 12月29日、三浦市の北下浦漁港（上宮田地区）内に三和漁協上宮田支所の直売施設がオープンしました。当日は施設前のスペースにテントを設営し、消毒用アルコールを設置するなど新型コロナウイルス対策を講じて販売を行いました。テントには地先で漁獲されたカワハギやナマコ、タコなどの新鮮な地魚のほかにもダイコンやミカンなどの三浦の農産物が並び、訪れた人はみな熱心に買い求めています。



直売の様子



販売された新鮮な鮮魚

○ 1月9日、横須賀市東部漁協横須賀支所（旧田浦出張所）所属の漁業者は、田浦漁港の沖で養殖しているマガキの成長状況を調査しました。同漁協所属漁業者は、地元で採苗した横須賀産のマガキの養殖に取り組んでいます。昨年6月に採苗したマガキを12月初旬から潮通しのよい漁場で育成したところ、大きな個体では殻長5cmを超え良好な成長が確認できました。マガキの養殖期間は通常3～4年ですが、栄養豊富な東京湾では成長が早いので、出荷までの期間の短縮が期待されます。



順調に成長しているマガキ

●お知らせ

○ 漁業への就業を目指す方に必要な知識や技術、資格を身に付けてもらう研修を行う「かながわ漁業就業センター」の取組みが、ラジオとテレビで以下の日程により放送されます。

- ・ 1月30日（土）朝8時30分～／FMヨコハマ『KANAGAWA Muffin』
- ・ 1月31日（日）夜18時～／TV神奈川『カナフルTV』

同センターの今年度の研修生は現在、現役漁業者の講師の下で実際の現場で漁業を体験しています。神奈川県漁業士会の会員である小田原市漁協の鈴木大助青年漁業士（KANAGAWA Muffin に出演）と、横浜市漁協の齊田芳之指導漁業士（カナフルTV に出演）がそれぞれ講師を務められており、両番組で研修の様子について話をされます。

1月20日には横浜市の柴漁港でカナフルTVの撮影があり、インタビューでは講師の齊田さんの後継者育成に対する思いや、研修生からは漁業に就業する熱意が語られていました。

○ 水産技術センター相模湾試験場のホームページでは、普及指導員「小田原市場情報」のページで小田原魚市場の水揚げ状況を紹介しています。興味のある方は、下記URLへアクセスしてみてください。

- ・ 普及指導員「小田原市場情報」URL：<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/jx3/odawaraitiba2.html>